

マザアス10周年 特別記念号

マザアス10周年特別企画

10th Anniversary

「10年を振り返って」

利用者のみなさまからの感想

マザアス家族会報告

写真でみるマザアスの歩み

マザアスの沿革

利用者インタビュー

ボランティア回想記

東久留米市長 理事長
施設長 理事
ごあいさつ
スタッフ あしたき



第36号

2005.5.8

MOTHERTH

社会福祉法人 マザアス

〒203-0004 東久留米市氷川台2丁目5番7号
tel 0424-77-7261 fax 0424-77-7500 ホームページ <http://www.moth.or.jp>
発行責任者 高原敏夫 編集責任者 山崎宣子

ごあいさつ

マザアスが目指すのは、 「生活の質を高めるケアの実践」です。

— Quality of life through care —

祝 辞

東久留米市長 野崎重弥

「マザアス東久留米」開設 10 周年、誠におめでとうございます。

この 10 年間、高齢者の数が増加する中、市東部地域における高齢者の総合的な福祉施設の核として、特別養護老人ホーム利用者のほか、ショートステイ、デイサービス、ホームヘルプ、在宅介護支援センター、グループホームなど、高齢者施策の充実に努めていただき、本人の生活の安心、家族介護者の負担軽減など、多くの場面で社会的使命を果たしてこられたことに敬意と感謝を申し上げます。

いま、国会では介護保険制度改正案が審議されています。その狙いの一つは、地域の包括ケアシステムの構築です。わが市の高齢者福祉施策も「住み慣れた家庭や地域の中で安心して暮らせること」を意図として展開しています。しかし、高齢化率は 18.5% から毎年 1 ポイントずつ上昇し、かつ投入可能資源に限りがある中でその意図を実現できるかは、事業者、医療関係者及び地域のボランティアとのネットワーク形成にかかっています。

安心して住める地域づくりのために、今後ともマザアス東久留米が市東部地域における高齢者福祉の核としてリーダーシップを発揮されることを期待いたします。

「三年たてば」 理事長 手塚清三郎

社会福祉法人マザアスが、東久留米市の東部に施設を開設して以来、十年を経過しました。高齢者福祉は激変の荒波にもまれた日々でしたが、何とか今日まで乗り切ることができました。これは行政当局の適切な指導「職員、利用者とその家族及び地域の皆さん」が一体となって努力して下さったお陰と、心より感謝しております。

「三年たてば三つになる」当然の言葉ですが、時の経過に従って物事も変化し、成長すると

いう意味が込められています。我が法人も十なりの姿になっているか、再点検をして新たな出発をしたいと思います。

「十年一昔」 施設長 高原敏夫

西部に「けんちの里」中部には「シャローム東久留米」と「東久留米市の高齢者福祉は西から」陽が昇って、三番目の施設が「マザアス東久留米」でした。「東部にも」という要望が高まっていたことは容易に想像つくことではあったが、縁あって、当地に法人を設立して、諸事業を展開することができたのは幸いでした。十年を経て、やっと地域に根を張ることができたと実感しているところです。

「十年一昔」というが、今や「一年一昔」といってもよい程、世の中の流れは急です。この流れに押し流されることなく、職員一同ここを合わせ、地域のニーズに誠実に対応することによって「共に生きる社会の創造」に貢献したいと思っておりますので、これからもご協力、ご指導宜しくお願い致します。

次の 10 年も研究心と豊かなアイデアで

理事 児玉桂子

現場の職員は周りを見回す暇がないほど忙しいと言われますが、マザアス東久留米の 10 年の歩みの中で、職員の研修・研究が定着して、充実したことは大きな成果だと思います。特に、毎年施設内で行われる職員研究発表会は、①現場の実践からテーマが生まれ、成果が実践に生かされること、②介護など直接サービスの職員だけでなく栄養や総務まで全員が参加できること、③ご家族や東久留米のオンブズマンなど市民にまで参加の輪が広がっていることなどが特徴といえるでしょう。近年はとくに、研究課題の改善の取り組みを通じて、利用者の方に喜んで頂き、それが職員の喜びや励みになっている様子がよく伝わってきます。こうした蓄積が、寄り添うケ

アや個別ケアなど、ケアの向上を目指す力になっていると思います。次の10年も、研究心旺盛でアイデア豊かでありたいものです。

「開設十周年記念に寄せて」

監事 西野次三

十周年記念おめでとうございます。心からお喜び申し上げます。開設以来、施設長を中心に職員の皆さんが一体となって研修に励み、施設利用者の生活の質を高めるケアの実践に真摯に取り組んでこられた姿を目のあたりにし深く感動しております。また大勢のボランティアの皆さんと協力し、きめの細かい介護サービスを実施しておられる姿にも深い感銘を受けております「質を高めるケアの研修」と「地域社会との緊密な提携」は社会福祉にとって不可欠の要件であると思います。優れた実績を示される当マザアスは、今後も高齢者の福祉ニーズに応えるべく先駆的な役割を果たしていただくものと期待いたしております。末筆になりましたが、マザアス関係の職員の皆様ならびに施設利用の皆様のご健勝をお祈りし、十周年記念お祝いの言葉とします。

祝 10 年

初代事務長 川田國雄

平成7年1月、建設中のマザアスの隣、今グループホームひかわだいのある所にプレハブ2階建のマザアス建設事務所がありました。

1月17日突然阪神淡路大震災が発生し、この現場も建設資材の搬入の遅れが生じ作業員が大慌てをしていました。

その建設事務所の片隅で私は1人で4月1日採用予定者約60名の給与決定、社会保険加入手続き、平成7年度事業計画及び予算案(5会計)等の作成業務に従事しておりました。

先日阪神淡路大震災10周年が報じられていたが、マザアスも10年経過したなと当時を懐かしく思い出しております。

開設当時、職員の平均年齢は男性34歳、女性33歳、若さとファイト溢れる集団であり、庭には緑と花が多い施設でありました。

「故郷に緑をもつ者は幸福なり」と云う言葉がある、氷壺の心の職員のもと「花はその主の心の色に咲く」ものであります。

今後も花の多き施設であって欲しいし、10周年記念に22名の方々が10年勤続の功を讃え表彰されたとのこと、誠におめでとうございます。喜怒哀楽、十年一剣を磨き、多様な経験の連続だったと思います。その努力と忍耐はまさに画竜点睛であり、感動さえおぼえます。「人に歴史あり」貴方達だから言えるのです。氷川台の空に向かって堂々と《マザアスの歴史を創りつづける》と。



平成7年5月 開所式、施設の模型を囲んで

まだまだ通過点

マザアス日野施設長 今澤隆一郎
(初代デイサービスセンター次長)

私の老人福祉への関わりはマザアス東久留米の誕生とともに始まりました。新しい事を始めるのは楽しいことで、建物の設計や運営方針などを詰めていく作業は新鮮で心を弾ませながら取り組んだことが思い出されます。職員採用の際は、新しい施設で共に働きたいと多くの応募があり、その熱心さにこれなら良い介護が出来ると直感したものです。東久留米市の対応は担当の市職員の思いも強く、細かく丁寧な指導・助言がありました。仕事はデイサービスの責任者でのスタートでしたが、合理性や能率性を重視する職場からの転進でしたので運営上戸惑うことも多々ありました。でも、基本的に生身の人間と関わることが好きですので、素直に福祉という新しい世界にはまっていけたと思います。一方、地域にはお年寄りが好きな女性を中心にした多くのボランティアさんがいらっしゃって、今日に至るまで強烈なエネルギーを頂いていることは感謝に耐えません。マザアス東久留米自身、囑託医の協力やリーダーとなる職員達の変わらぬ前向きな姿勢もあって、確かな歩みを続けていると実感しています。老人福祉は他の福祉分野とは異なる使命を担いながら、高齢化の進展とともに留まるところを知りません。お年寄りがたとえ不自由な状況に陥っても、人生の先輩として敬われ、生きがいをもって日々過ごせる支援が得られることを願います。そしてそれを通して自分も成長していければと思います。

利用者インタビュー

聞き手：田中さんとデイサービスのおつき合いはどのくらいになるのですか？

田 中：デイサービスが始まって以来ずっとですけど、マザアスができた頃から遊びに来ていましたからつき合いは長いですよ。

聞き手：顔見知りの方も多かったのではないですか？

田 中：他施設のデイサービスでいっしょだった方も多くいましたねえ。

聞き手：マザアスのデイサービスはいかがですか？

田 中：職員の方は本当によく働く。とにかく忙しそうで驚いた(笑)

聞き手：デイサービスを利用されて良かった事は何ですか？

田 中：入居している方々とも親しくなれた事です。

聞き手：プログラム内容についての感想などありましたらお聞かせください。

田 中：そうねえ…皆んなそれぞれに好きな事をやらせてもらえたらと思いますねえ。

聞き手：好きな事とおっしゃいますと？

田 中：選べるプログラムがあって、やりたい人がやりたい事をやり、何もしたくない人は何もしないでいいからおしゃべりを楽しむとか、そんな風な。

聞き手：つまり自由気ままに過ごせるプログラムがいいという訳で。

田 中：そうそう、私なんかすぐ飽きてしまうたちだから(笑)

聞き手：デイサービスの今後の大きな課題ですね。では今まで一番心に残ったマザアスでの思い出は何でしょう？

田 中：お寿司屋さんが来て寿司を握ってくれた事と、全生園に花見に行ったことかなあ。

聞き手：日本人ならやっぱりお寿司と花見ですね。それでは最後にマザアスに期待する事を聞かせてください。

田 中：皆んなが気兼ねなく気楽に訪れる事のできる施設であってほしいですね。

聞き手：開かれた施設であり続けるという大きな使命ですね。
今日はありがとうございました。



そして田中さんに一句詠んで頂きました。

ケアさんの笑顔の癒し春が来る

キノ

これは平成 17 年 3 月 16 日のデイサービスご利用日に田中さんにお伺いした内容を集約したものです。

聞き手：通所サービス課長／田嶋精二



入居者の声

マザアス十年

志賀妙子

平成7年6月の中旬、多少の不安と、沢山の理想を抱えて玄関へ到着した日、2歳若い武田清治さんが、車椅子でロビーに座り、ニッと笑って迎えてくれたシーンが消えない。

私は62歳。彼はずっとマザアスの看板的存在で、平成12年の大晦日に逝ってしまったが、覚えている人も殆どいない。十年という歳月は長かっただろうか。

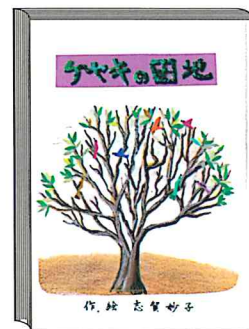
頂いた個室でやりたいことをやり、云いたいことを云わせて頂き、伸び伸びした環境で関わる職員の人間関係も、家族に近づくにつれ、外の浮世の人々との出会いも施設であるからこそ思いがけなく、多くの発見や感動で忙しく、元気を取り戻したようだった。

私にまだ若さや体力の蓄えがあったせいもあるが、高齢者の多くは又違った思いのようではあった。

ジェンキンス氏のやっとな日本に安住出来る日の涙ながらの言葉は、似た心情だと思う。「最終章を此処で暮らしたい…」

見知らぬ島で、異人種の中に突然飛び込み、初老の宿命を戸惑い、悲しさと切なさ、しかし安堵感をもって身を委ねる所に通じつた孤独な平安。しかし彼にはたくましい妻と愛する娘達が支えて、健康なら次第になじんで行けるだろう。

心から十年を祝いたい。墓碑銘の中に出会いと別れの顔が増えた。何とか介護して下さる方々との相互の理解を頼りにして日本一住み良い所になるようにと、切に願う此の頃である。



グループホームひかわだいある日の会話



「ここはええなあ。食事がたのしみでな散歩の途中で手紙を出したり、ふきのとうを摘んで夕食の天ぷらにしたり…」



「本当ね。仲の良い仲間もいるし、職員さんも良く面倒みてくださるし…」



「ゆりの会で趣味の物ができて頭が良くなった」



「俳句も作るのは大変だけど、ほめられるとうれしいね」



「ここはずっとすごしていけるしな」



「今日蒔いた朝顔の種も大きくなるのが楽しみ…」



眞田



戸部



「空にはかもめ」

紺野弘子

若い頃より絵画に打ち込んでご夫婦ともども個展を開くなど活躍されていた方です。今も時々キャンパスに向かわれます。

うぐいすの もう一声を じっと待つ

掛け軸は 桜の山の 黒絵なり

入居者 長尾さん

職員



専業主婦から介護のプロへの10年。私自身が一番勉強させていただきました。

島本寿美

質の向上に向けて取り組みながら利用者の
がいつも満足して頂けるよう、サービス
実したいですね。

鈴木

グループホームでの仕事を通し、学ぶことが
沢山あり、人間として成長したと思います。

横川 誠



これからも、お年寄りと毎日楽しく、生き生
きと関わって如果能、嬉しいです。

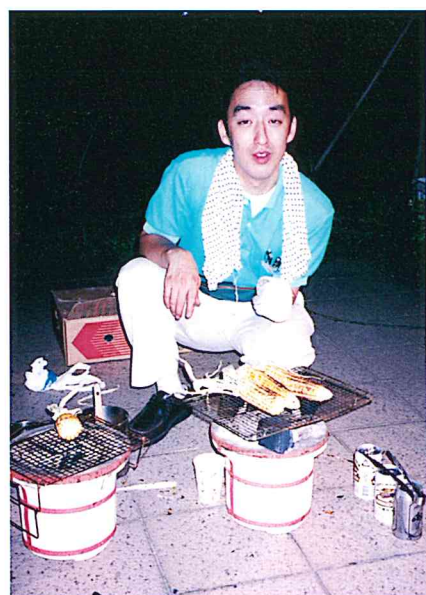
櫻井 彰

10年の間、多くのお年寄りの別れを
経験しました。人生の終末期を共に
過ごすのは、重く辛い仕事です。静
かで穏やかな時間をお手伝いしたい
と思っています。

岩崎伸子

マザアスに来て10年、数多くの出会いと別
れを経験しましたが、その一つ一つが私にとっ
て力となり、そして宝物です。

廣田典彦



「慈しむ」「思いやる」「育む」言葉の意味
を教えていただいた10年でした。

山崎宣子

つらい時も楽しい時も家族の様に思えた入居
者の皆さん、これからも入居者の皆さんの幸
せと私の幸せのためにより仕事を頑張りたい
と思います。

森田雅子

オープン準備に追われた日々から早10年。
これからも健康に注意しながら頑張ります。

吉田義男

闘記

長いようで短かく感じた10年でした。
地域・ご家族の皆様に感謝。

高原信夫

マザアスに勤務し様々な事を学ぶ事ができました。これからもしっかりと自分自身と見つめ合い、考え、内面的に成長していきたいと思っています。

河原新一

この十年の勤務のおかげで、我が子を社会人まで育てる事ができました。感謝します。

石橋春美

アッという間の10年でした。立ち上げのヤル気に満ちた新鮮な気持ちを思い出し、1からスタートします。

斉藤良子

多くの出会いと別れがありました。珠玉の思い出を、いつ迄も大事にしたいと思います。

掛川勝裕

人との出会いを大切にし、入居者にとって住みやすく、またそのご家族には私も住んでみたいと思われるホーム作りをしていきたい。

匿名希望

十年一昔とは言いますが、日々何かに追われながらアッという間に過ぎてしまったように感じます。特に開設当初は無我夢中、なり振り構わず髪振り乱して走っていました。今、一番何が思い出かと問われると、数々の行事や外出もさることながら、やはり出会った人、お別れした人の笑顔、優しさ等、大勢の人から頂いた温もりの数々です。

出会った人の数だけ心のアルバムが厚くなりました。人の持つ情合いに支えられ、今があります。

小森雅子



これからもマザアスが、関わるすべての人にとって‘ひだまり’のような居心地のよい場でありますように。

藤原将洋



10年間で人との出会い別れをこんなに経験するとは…マザアスは、私を成長させてくれた場です。

中屋真岐子



色とりどりのお花いっぱい囲まれた明るいマザース東久留米。開設10周年おめでとうございます。心からお喜び申し上げます。

省みますに光陰矢の如しと申しますが、開設に当たりボランティア説明会に出席したのも昨日のここのようでございます。当時職員さんの平均年齢は30代で一番若いホームだと伺いました。まさしくピンクのユニフォームに身を包み、きびきびと利用者様の目線で働くお姿に感動し、利用者優先指向であると感激いたしました。ホームにはたくさんの行事、クラブがあり私は茶道を担当させて頂いております。10年の間には人生経験豊かな多くの方々に出会い、多方面の学習をさせて頂きました。何時もお軸をメモなさっていた広瀬さん、お点前のご立派だった松田さん、今はなき多くの方々の偲び回顧の情しきりです。

茶道クラブをお支え下さる心暖かいボランティアの皆様に感謝しつつ今後も利用者様と共にお茶を楽しんで参りたいと存じます。

茶道ボランティア：樋田昌枝



10周年を迎えてのつばやき

開設10周年おめでとうございます。

ボランティアに携わってきた私たちも10年を迎え、マザースの最初からを見、聞、体験させて頂きました。人が人として暮らしていくことの大変さ、大切さ、その中で多くの人の力と智恵と暖かい心を借りて毎日が過ごせること、助けてくれる人々にその心を認識させてくれるお互いの立場、それをほんの週2時間足らずのボランティアの積み重ねから分らせて頂いたように思います。

これから更に状況は厳しくなると思いますがお互いの持っているものを上手く引き出し、気持ちよく快く仕事ができるようにマザースを運営される方々にお願い申し上げますと共に、もっと積極的にボランティアの募集をされてみては如何でしょうか。来てくれるのを待っているだけではなく、働きかけるのも必要だと思います。呼びかけを待っている人もきっといるはずです!

リネン担当：ボランティア



ボランティア

マザア回想記

マザアス東久留米開設10周年おめでとうございます。東久留米で3番目に氷川台の静かな高台に明るく設備の整った特別養護老人ホームマザアスが近くに開設されたことを大変嬉しく思いました。さっそく今は亡き平松さんと見学させて頂き、職員さんの説明を受けながら、ここに入居できる事は幸せなことだと話しながら、少しでもお手伝いできればとボランティアの申し込みをいたしました。あれからもう10年経ち、現在は大勢のボランティアの申し込みがありますが、当時はまだまだその輪も少なく、色々なお手伝いをさせて頂きました。でも今となればそれが自分の為に役立っている事に大変感謝しております。終の棲家として入居なさった方々、地域のデイサービスを受けていらっしゃる方々がマザアスにお世話になって本当よかったと言って頂けるような、楽しく明るい日々を過ごせるようなマザアスでありますように願っております。

喫茶書道ボランティア：当麻芳枝

特別養護老人ホームマザアス東久留米の開設10周年おめでとうございます。土地提供者の方はもとより、関係各位のご尽力と周辺地域の暖かいご理解とご協力があつたからこそ今日があるのではないのでしょうか。

急速に高齢化が進む中で、当時民生委員として高齢者の介護の問題を考えてきた私にとって、東部地域に心待ちにしていた老人ホームマザアスが開設された時のことは今でも忘れられません。

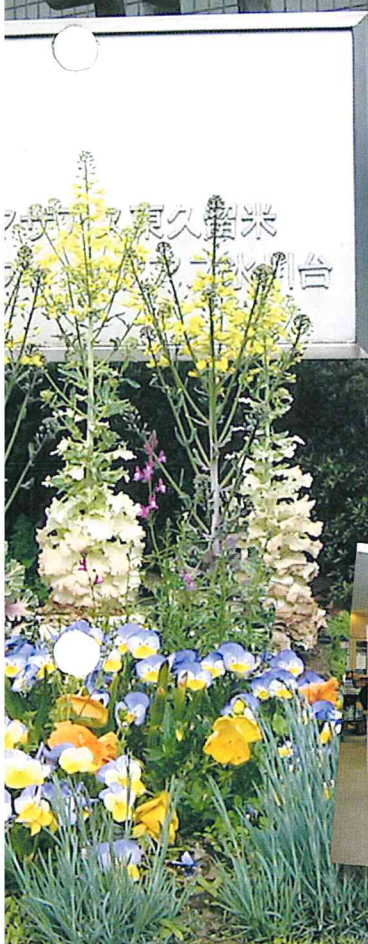
3階に広い交流ロビーができ、地域の中の施設という意味でもボランティアの受け入れを試みたことが今日まで入所者と職員、そしてボランティアとの交流に大きな成果があつたのだと思います。

施設長はじめ職員の方々の熱意とご指導により、自主参加のボランティアの皆さんが、それぞれの特技を生かした「ゆりの会」という大きな組織をつくり、入所者のみなさんを元気づけておられます。

また、在宅支援センターの充実も大きな支えとなっており、地域の方々から「助かりました」「感謝しております」という声を多く耳にいたします。

施設でいつかお聞きした“やさしい方はもっとやさしく”をモットーに、これからも施設と地域との交流の輪を広げながら協力していきたいと思っています。

喫茶、手芸ボランティア、民生委員：水上良江



家 族 会

地域社会の宝として

マザアス東久留米家族会 代表 斎藤 治
創立 10 周年おめでとうございます。

母と私がお世話になったのは、この 5 年間です。母にとっては環境の激変と、体調が年ごとに大きく変化し、気が安らぐことがない日々だったかもしれません。しかし 2 階の各部屋を歩き回り、真夜中に起きていても、事務室で相手をしていただき、奇異な行動でも適切に対処していただき、処遇の面では何の不安もありませんでした。

私にとって大きな支えが家族会の皆様方でした。経験のある一言ひとことが、動揺している私を励ましてくれたのです。病気と加齢による衰え、「今まで元気だったのに…」という思いがあるので、事態を受け入れることに時間がかかりました。

父が倒れ、母が病んで、心の準備がないままに新宿の実家に飛んで帰ってから 8 年、幸にもマザアスに入所できて 5 年、今では安心感があります。介護が保険制度に変わった時期といっしょにきたわけですが、2 階で、あるいは 3 階で趣味の活動に参加しているときの笑顔を懐かしく思い出します。職員、ボラ



「家族会」から寄贈していただきました。1 年前に誕生した稚魚が、今では親と区別がつかないほどに成長しています。

「かつての家族会の一員、賛助会員、そして現在ボランティア活動の一員」

牧野和子

創立 10 周年、本当におめでとうございます。入居が決まり、義母とホームを訪れた時、すごくきれいな所に住める幸せを感じた義母の喜びは大変なものでした。私は私で自分の事しか考えず、あゝこれで介護から少し離れられる喜びに浸っていましたが、愚かな私だったと気づくには日数はかかりませんでした。新しい環境になじめない入居者のお世話に、右往左往していらっしゃる職員の方々の動きを見た時、何かしなければ、私達に出来ることが何かあるとの思いが日毎膨れ上がってきました。家族会の立ち上げでした。

元気があり大変我儘だった義母の世話は

ンティアの皆様には本当に感謝しています。

特養は終の棲家だと思っていますが、2 年前の突然の入院と、その後の経管栄養という事態に直面して今後を案じた時にも、再びマザアスに受け入れて頂いて、安心し、信頼が増しました。「とても親切によくしてもらって感謝しています」という電話を、他のご家族の方からも頂きます。

誰もが歳をとり、専門家の力をお借りする日が来ます。いろいろな局面で助けて頂いて、この地域になくてはならない社会的な宝だということを痛感しています。

これから家族として、地域の一員として関わっていきたいと思っています。よろしくご援助、ご指導をお願いします。



「おやつ会」のひとつ、伝統芸に拍手喝采 !!



変だったと思います。7 年間のホームの生活の後、素晴らしい終焉を迎える事が出来ました。施設の方々との最後のお別れ、涙で何も見えませんでした。

賛助会員として、又ボランティアの一員として現在もお手伝いさせて頂いていますこの 10 年の間に私は沢山の人の優しさ、教えを貰いました。同じ目線で、人の話を受け入れる事も出来るようになりました。入居者の方との楽しいひと時は、私にいっぱいの幸せを与えてくださっています。

人は誰でも老いを迎えます。これからの自分の為にも、今入居者の方が何を望んでられるのか、今何をするのが最良なのか少しずつ理解も出来るようになりました。

このような勉強が出来るボランティアは私にとって最高の教育の場所だと思っています。無理をしない私がいて、これからも長く続けられるボランティアでありたいと思っています。

マザアス10年の歩み

平成4年11月 設立準備委員会にて理事長に横溝幸雄、施設長に高原敏夫を指名

平成6年10月 社会福祉法人マザアス設立認可

平成7年3月 第一回理事会開催

5月 マザアス東久留米 事業開始

7月 高齢者在宅サービスセンターマザアス氷川台事業開始

平成8年7月 ホームヘルパー派遣事業（ヘルパーステーションマザアス氷川台）配食サービス開始

10月 手塚清三郎が理事長に就任

平成9年3月 高原敏夫理事を常務理事に選任

平成10年10月 東久留米市在宅介護支援センター開設、事業開始



平成11年5月 マザアス日野 事業開始

6月 老人介護支援センター在宅介護支援センター多摩川苑 事業開始

7月 高齢者在宅サービスセンターマザアス大門 事業開始

12月 認知症（痴呆）高齢者グループホームグループホームたきやま 事業開始



平成12年4月 介護保険制度施行

7月 訪問看護ステーションマザアス氷川台 事業開始
ヘルパーステーションマザアス多摩川苑 事業開始

平成13年6月 居宅介護支援事業（訪問看護ステーションマザアス氷川台）事業開始

平成14年1月 第一回評議員会開催

3月 認知症（痴呆）高齢者グループホームグループホームひかわだい 事業開始

8月 訪問看護ステーションマザアス氷川台事業廃止、居宅介護支援事業所の名称変更

平成17年5月 マザアス東久留米 開設10周年

(50 音順・敬称略)

東京都立清瀬東高校ボランティア部
東久留米市立大門中学校ボランティア部
声楽アンサンブル“リーダーターフェル”

–12–